関東放送シンポジウム
ラジオによる地域社会への貢献

「大規模災害時のラジオの役割」

武蔵大学社会学部
メディア社会学科教授
松本　恭幸

今日、お話させていただく内容

東日本大震災、熊本地震の被災地での災害放送のフィールド調査を通して考える大規模災害時のラジオの役割について

- 武蔵大学社会学部メディア社会学科の学生達と関わった被災地支援の市民メディア活動の中での臨時災害放送局の訪問取材
  …熊本地震の際も一部、同様の活動を実施
- 大規模災害時のコミュニティFM局に必要な対応
- 大規模災害時の臨時災害放送局の開局と運営の課題
- 大規模災害に備えるための今後の課題

最初は被災地の臨時災害放送局への携帯ラジオの寄付からスタート

2011年３月11日に発生した東日本大震災の後、被災地では多くの臨時災害放送局が立ち上がり、被災者向けに復旧関連、及び避難所での生活に必要な情報を提供する放送を開始

現地から入る情報では、FMラジオの受信機が不足（地元にコミュニティFM局がなかったり、県域局の放送が中継設備の問題等で聴けず、日頃、ラジオを聴く習慣がなくて受信機のない世帯も多い）

そのため地域メディアの調査研究を行っている武蔵大学松本ゼミでは、学内で呼びかけて自宅で不要になった携帯ラジオを集め、電池とセットで被災地の臨時災害放送局に送り、そこで必要とする人達に役立ててもらう活動を開始

次に構想した学生による被災地支援の市民メディア活動（1）

被災地の臨時災害放送局に学生がラジオを送る活動は、４月中頃に一段落し（またメーカーが寄贈したラジオが、５月のゴールデンウイーク明けには、現地で行き渡る）、次に学生達が継続出来る支援活動を目指す

↓

メディア表現とフィールド取材を学んでいるメディア社会学科の学生が、そのスキルを活かして、災害ボランティア活動と併せて現地で取材し、映像や記事で様々なメディアで多くの人に伝える「学生による被災地支援のための市民メディアプロジェクト」をスタートさせる

次に構想した学生による被災地支援の市民メディア活動（2）

「学生による被災地支援のための市民メディアプロジェクト」の概要

【被災地の取材先】
被災した自治体の被災者、災害ボランティアセンター（社会福祉協議会）関係者と災害ボランティア活動に携わるボランティア、被災地の学校の学生や教職員、自治体関係者、NPO／NGO（協議会、中間支援組織を含む）関係者、地域メディア（臨時災害放送局、エリアワンセグ、地域ポータルサイトや地域SNS、ローカル紙、ミニコミ等）関係者

継続した取材

【協力団体】
企業（CSR部門）
NPO／NGO

助成金・各種協力

【学生による災害支援の市民メディア活動】
●学生による被災地支援のための市民メディアプロジェクト（武蔵大学）
●他大学大での実践活動とも提携

【大学】
正課、正課外活動として支援

教員による指導

制作した番組・記事の配信

【協力メディア】
放送メディア（衛星放送、CATV、エリアワンセグ）
ウェブメディア

【学内・学外での報告会】
地域の学校の授業（総合的な学習の時間）
防災イベント

訪問取材した被災地のラジオ局

■コミュニティFM局

「ラジオ石巻」（宮城県石巻市）、「ほほえみ」（宮城県岩沼市）

■後にコミュニティFM局に移行した臨時災害放送局

みやこさいがいエフエム（岩手県宮古市）、おおふなとさいがいエフエム（岩手県大船渡市）、けせんぬまさいがいエフエム（宮城県気仙沼市）、なとりさいがいエフエム（宮城県名取市）、わたりさいがいエフエム（宮城県亘理町）

■臨時災害放送局

おおつちさいがいエフエム（岩手県大槌町）、かまいしさいがいエフエム（岩手県釜石市）、りくぜんたかたさいがいエフエム（岩手県陸前高田市）、みなみさんりくさいがいエフエム（宮城県南三陸町）、そうまさいがいエフエム（福島県相馬市）、やまもとさいがいエフエム（宮城県山元町）、みなみそうまさいがいエフエム（福島県南相馬市）、とみおかさいがいエフエム（福島県郡山市）

■臨時災害放送局と連携した県域局

IBC岩手放送（岩手県盛岡市）

■臨時災害放送局の開局支援を行ったところ

MTS＆プランニング（福島県福島市）、FMながおか（新潟県長岡市）、FMわいわい（兵庫県神戸市）、はっとFM（宮城県登米市）

大規模災害時のコミュニティFM局に必要な対応

〔「ラジオ石巻」、「ほほえみ」でのヒアリングを通して〕

■自治体との防災協定

■緊急割込放送が出来る体制

■演奏所と送信所の回線が途切れた際に、送信所に放送機材を運んで自家発電で放送を再開

■自治体の災害対策本部のある施設にサテライトスタジオを設置（中継車の送信機を運ぶ）

■スタッフが24時間泊りがけで生放送出来る体制

■自治体の首長が臨時災害放送局の申請をして免許の公布（出力アップ）

■自治体の発表する震災関連情報以外、名前を名乗って連絡のあったリスナーからの安否情報等を、リスナーからの情報とことわって伝える

■全国各地から局に届くラジオを避難所に届ける

■可能ならスタッフによる取材、避難所からの中継放送を行う

大規模災害時の臨時災害放送局開局の課題（自治体主導で開局する際の注意点）

〔かまいしさいがいエフエム、みなみさんりくさいがいエフエム、そうまさいがいエフエム等でのヒアリングを通して〕

■広報誌、自治体サイトの限界

■機材の確保と開局支援をどこから受けるか

■自治体職員以外の市民のボランティアを含むスタッフの確保

■音源の確保（これは全国各地からCD等が届くので問題ない）

■重要なのは、自治体が臨時災害放送局を防災無線に代わる告知媒体ではないと理解すること
◎放送開始に当たっての周波数の告知
◎告知放送の合間に音楽を流す24時間放送の実施（リスナーが周波数を合わせた際に放送が流れないと、二度と聴かれなくなる）
◎行政関連以外の民間情報（エリア内での店舗の再開、サービスの内容等）を、リスナーが最も必要とする初期の段階で放送出来るか
◎自治体の施策等について、番組の話題としてトークして内容を深めることが出来るか

大規模災害時の臨時災害放送局運営の課題（担い手となる組織、人が地元に存在するか）

〔みやこさいがいエフエム、おおつちさいがいエフエム、おおふなとさいがいエフエム、りくぜんたかたさいがいエフエム、けせんぬまさいがいエフエム、なとりさいがいエフエム、わたりさいがいエフエム、やまもとさいがいエフエム、みなみそうまさいがエフエム、とみおかさいがいエフエム等でのヒアリングを通して〕

■放送関係者OB、ミニFMやイベント放送等の経験のある市民がいると、その経験が開局後の放送に活かせる

■地元に担い手となる組織、人が存在しない場合、支援に入る外部の放送関係者に自治体が放送を委ねるケースも存在

■近隣のコミュニティFM局等からの応援スタッフの派遣等、継続した支援を受けられるかどうか

■復興の見通しが立たない場合の放送の注意点
◎地元から避難した人へのネットラジオでの全国配信
◎地元から避難した人、避難せずにとどまった人等、置かれた状況や考え方は様々で、放送では個々の立場や判断を尊重
◎放送を通して様々な物語を抱えた市民の絆を育む

■被災地での他の臨時災害放送局、県域局との連携

東日本大震災後の状況と今後の課題

■熊本地震の時の災害放送
◎社員ほぼ全員が防災士の資格を持つ熊本シティエフエム
◎支援団体により臨時災害放送局の存在を知った益城町
◎総合通信局による送信機、アンテナの貸与と陸上無線技術士の紹介

■臨時災害放送局の開局、運営支援のための仕組みづくり

■関東では千葉県の太平洋側がコミュニティFM局の空白地帯（今後、大規模災害に向けてどのように備えるのか）